魚を観察しよう

ポイント

- もともと日本にいた魚か、外国から持ちこまれた魚か。
- 海の魚か、川の魚か、両方にすむ魚か。
- どのぐらいの深さのところを泳いでいることが多いだろう。

チチブ

胸びれのつけねに、オレンジ色っぽいラインがある、美しいハゼ。チチブ同士を水そうに入れると、けんかになる。

マハゼ

ハゼ科の代表選手。頭は大きく、かわいい顔をしている。体の両側に、角度により青っぽく光るラインが出る。

シモフリシマハゼ

しま模様がとてもかわいい、ハゼの仲間。びっくりすると、しまが消えるが、落ち着くとまた出てくる。

やってみよう！　「ペットボトルびんどう作り」

大きめのペットボトルを用意します。三角の部分をカッターナイフなどで切りはなします。切りはなした部分を逆さにして、中に入れます。このとき、えさの魚の肉とおもりの石を中に入れます。穴を開けて、ひもを通してくっつけます。底や側面などに、水抜きの穴を開けます。ひもを付け、池や川に沈めておくと、小魚などをつかまえることができます。

ギンブナ

見た目はコイに似ているが、口のまわりにひげがないのでわかる。関東地方には、ほとんどオスがいない。

モツゴ

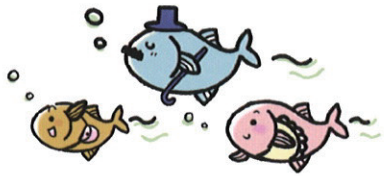
「クチボソ」ともいわれる、小さな魚。体の両側に黒いたてじまのラインがある。川の汚れにも強い魚。

コイ

口のまわりに４本（２対）のヒゲがある。日本でむかしから親しまれてきた魚のひとつ。とても長生きで、４０年ぐらい生きることもある。

ワタカ(幼魚)

もともとは、琵琶湖近辺にしかいなかった魚。アユと一緒に放流され、江戸川区を含むほかの川や湖などにも、すみついた。銀色の体で、背の部分は青っぽい。

タイリクバラタナゴ（幼魚）

もともとは、中国から持ち込まれた魚。イシガイ、ドブガイなどの貝の中に、卵を産み付ける。繁殖期、体の色がとてもきれいになる。